

オープン市場短信 (2011年3月)

2011.3.08

◆ 2月のCP市場動向

2月のCP新規発行額は約3兆6600億円となり、期落ち(約3兆7700億円:当月発行分含む)を若干下回った(除く、金融機関発行CP・ABCP)。2月末残高は、一般事法が期落ち比減少となったが、その他金融や証券会社発行分が増加したことから、前月比約445億円増加し15兆7484億円となった。

2月は、一般事法発行残が2009年5月以来、ようやく前年同月比を上回る結果となった。

一般事法の資金調達ニーズは、景気の落ち込みや社債発行による手元資金の積み上がりにより、長く低迷していた。今回のCP発行増が、今後の企業の資金調達増加に結びつく事を期待したい。

発行期間については、有利子負債圧縮目的もあって、期内物発行(3月償還)が圧倒的に多く全体の73.4%を占め(前年同月は70.3%)、期越物は9,600億円程度に止まった(前年同月1兆円強)。

発行レートの推移としては、先月同様3月末償還や大量発行を行った銘柄において若干強含みとなったが、購入意欲も相応にあったことからほぼ横ばい圏内での出会い。その他金融の期越物はやや強含みとなった。

2月の新発(3M)物の発行金利は、最上位銘柄(a-1+格)では0.113%~0.121%、一般事法(a-1格)では0.115%~0.128%、その他金融銘柄(a-1格)は0.123%~0.160%であった。

【格付け別の発行レート】

2月のCPLレートレンジ

(単位 %)

格付	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月
a-1+(オペ適格)	0.112% ~ 0.125%	0.117% ~ —	0.113% ~ —
a-1(オペ適格)	0.114% ~ 0.135%	0.119% ~ 0.126%	0.115% ~ 0.128%
a-1+(リース銘柄)	0.115% ~ 0.122%	0.118% ~ 0.150%	0.121% ~ —
a-1(リース銘柄)	0.120% ~ 0.132%	0.122% ~ —	0.123% ~ 0.160%
a-2	0.140% ~ ケ0.25	0.137% ~ ケ0.30	0.237% ~ ケ0.40

《CPオペ》

2月のCP等買入オペは、按分・平均落札利回り較差が前回より0.002%低下した。市場予想では0.12%近辺とされていたため、予想以上に強めの結果となった。その後のオペ残高の推移を見ると、落札玉は先月と異なり月末期日玉が多かったと思える。

買い現先オペは、今月も実施されなかった。

日銀(資産買入等の基金)によるCP買い入れオペ実績

(単位:億円)

実施日	実行日	オファー金額	応札額	落札額	按分・全取 利回り較差	平均落札 利回り較差	按分比率
2月10日	2月16日	1,000	3,785	988	0.023%	0.025%	66.7%

(注) 下限利回り(年0.1%)からの利回り較差方式

《ABC P》

2月末のABC P発行残高は、前月比604億円減少し2兆464億円となり、昨年11月末残を下回り過去最低水準となった。

《短期社債残高》

業態別残高推移を見みると、前月比では一般事法が1.07%減少し、ABC Pも2.87%減少した。一方、その他金融法人が1.69%、証券会社が5.10%それぞれ増加した。

1月の新規発行会社は無く、証券保管振替機構での発行登録企業は488社、既発行企業は延べ501社にて変化は無かった。

【業態別残高内訳】

(単位:億円)

業 態	2月末残高	1月末残高	増減
一般事法	49,679	50,214	▲ 535
その他金融	54,878	53,967	911
金融機関	32,463	31,790	673
(政府系金融	300	220	80)
(銀行等	11,518	11,927	▲ 409)
(証券	20,645	19,643	1,002)
ABC P	20,464	21,068	▲ 604
計	157,484	157,039	445

(注:買入消却分含む)

《CP現先市場》

月中現先(S/N)レートは、2月も日銀の手厚い資金供給が継続されたことから、月中を通じほぼ安定的に推移。月前半は0.105%近辺にて出合い、積み明け以降若干強含み、第四週は0.110%近辺まで上昇した。月中平均レートは、0.107%弱となった。

◆ 3月のCP市場動向

3月中のCP償還額は約4兆7400億円で、前年同月の償還額（約4兆1500億円）を大きく上回っている（除く、金融機関発行CP・ABC P）。期越えでの再調達が、どの程度実行されるか注目される。今年は、期末日（31日）に1兆9,200億円（7日現在）の償還が集中している。有利子負債圧縮を見据えた例年通りの動きではあるものの、期末日の発行見送りが多くなることを勘案すると、今月末の発行残は14兆円を割り込む事も考えられる。

発行減少の影響は、期越え発行の多いリース銘柄を除き、期内物と期越物とのレート格差が殆ど生じないといったことにも現れている。今月の発行レートは、一般銘柄では、期内物0.11%台半ば～0.12%台前半、期越え物で0.11%台後半～0.13%台前半の動きを予想する。その他金融・リース銘柄（a-1格銘柄）の3M物では、0.12%台後半～0.16%台を予想する。

《CPオペ》

日銀は、第4回のCP等買入オペを、3月10日に1,000億円オファー（買入日：3月15日）する予定。今回は、期末越えニーズで売却希望が高まると思われ、前回よりも足切及び落札平均レートは強含みになると思われる。

《CP現先市場》

現先レートは、先月同様日銀の厚め供給により、レポレート同様低位安定するだろう。月中は、0.10%台～0.11%割れでのレンジでの推移を予想するが、月後半期末越えのショートタームでの運用では、運用者が少なくなることもあって強含み地合いとなるだろう。

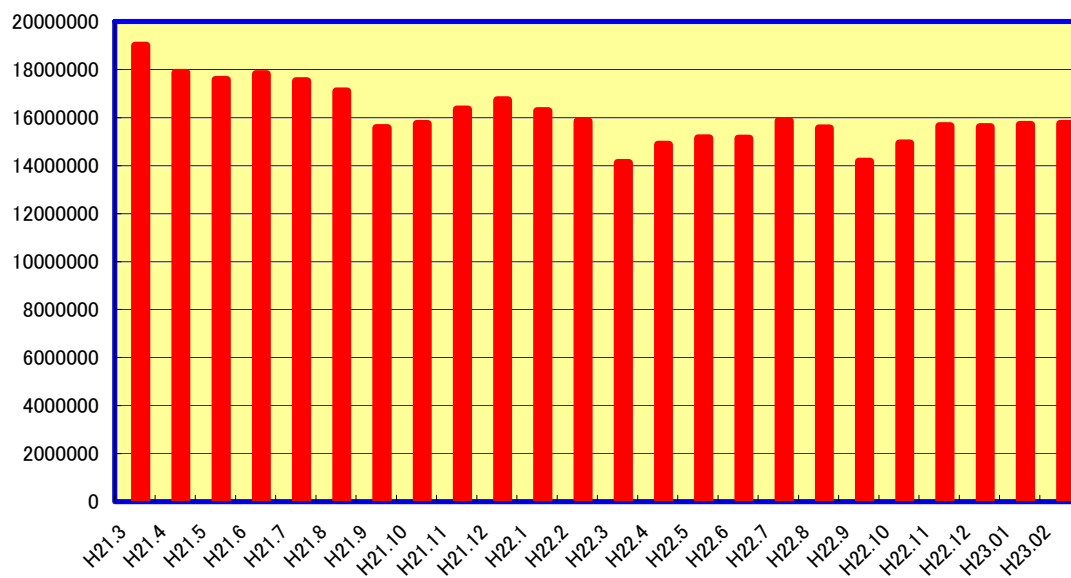
参考資料

短期社債月末残高（H22年3月～H23年2月）

発行登録企業：488社（発行実績あり501社）

短期社債月末発行残高

（過去2年間の残高を表示）



2月末発行残高ベスト20

2月末発行残高上位20社

(単位:百万円)

	発行企業名	2月末残高	1月末残高
1	三菱UFJリース	830,100	830,700
2	三井住友ファイナンス&リース	737,810	758,300
3	東京センチュリーリース	567,000	550,800
4	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	548,870	567,000
5	パナソニック株式会社	460,000	500,000
6	三菱UFJモルガンスタンレー証券	427,900	431,500
7	アルカディア・ファンディング・コーポレーション	408,060	420,290
8	JXホールディングス	397,000	452,000
9	大和証券CM	399,280	401,100
10	野村證券	399,200	350,200
11	みずほフィナンシャルグループ	380,000	380,000
12	みずほ証券	379,200	349,700
13	興銀リース	325,300	325,200
14	日興コーディアル証券	320,000	284,900
15	東芝	318,000	294,000
16	新日本製鐵	316,000	281,000
17	芙蓉総合リース	311,600	312,600
18	ジェイエフイーホールディングス	309,000	319,000
19	エイペックス・ファンディング・コーポレーション	296,740	299,300
20	オリックス	293,900	292,800

参考出所 (株)証券保管振替機構

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長(登金)第243号

大阪本社 〒541-0043 大阪府中央区高麗橋2丁目4番2号

東京本社 〒103-0022 東京都中央区日本橋1丁目2番3号

加入協会 日本証券業協会